



1 成果と課題について

児童

■ 成果

・「1元気よくあいさつをしている」で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた割合は、昨年度と同じく90%を超える。地域の方からも「元気な声で挨拶してくれるので、力をもらっている。」と言葉をいただいた。そのような挨拶ができる子が多くいるということは素晴らしいことなので、これからも元気な挨拶を奨励していきたい。

・「2交通安全や学校・学級のきまり・週目標を守っている」「4学校や学級で友達と仲よくしている」に項目は、全員が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えている。もちろんきまり等が守れていないときも友達との関係でいやな気持ちになったときもあるだろうが、トータル的にそう思っているのは、よいことである。

・「8今、勉強している内容はわかる」の項目は、「どちらかといえばそうは思わない」「そう思わない」の割合が10ポイントほど減少した。わかれば授業に積極的な参加ができ、苦手克服にもつながっていく。学校では、時間数は少ないが個別支援対応等の非常勤講師を配置している。それらを活用し学習理解の支援を続けていきたい。

・「23見学や体験活動からわかったことは役に立つ」で、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた割合は98%と高い。学校だよりやHPでお知らせしているとおり、鹿背山クラブや学校支援ボランティアの方々等たくさん学習支援を受けており、校外学習にも出かけている。実際に見て触れて、聞いて学んだことは、知識を得るだけでなく、子ども達の心に残る学習となっている。

・「24先生は、授業を工夫してわかりやすく教えてくれる」、「25先生は頑張ったことを認めてくれ、ほめてくれる」の割合も高い。子ども達の学力向上や活動意欲向上につながる特に重要なことであると認識している。

・「27先生は、いじめや仲間はずれのないようにしっかりと教えてくれる」も、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた割合は95%と高い。計画的な人権学習の他、SNSの正しい利用についての学習など行い、いじめや仲間はずしが無いよう指導に努めている。また、仲間づくりをねらいとして、鹿背山班活動の機会を多く取り入れている。集団登下校でも、上学年が下学年の安全に気を配っている。本校のよき伝統である。

・28の防犯・防災に関する項目も、「そう思う」と答えた割合は高い。地域とも連携しながら繰り返し訓練することで、子ども達は自分で考えて身を守る行動ができるようになってきている。

■ 課題

・「7学校生活は、自分で考え、行動している」は、昨年度より割合が下がった。どのように行動したらよいか考える時間やヒントを与えたり、自分から考え行動することの習慣化を図ったりすることが必要である。特に来年度、6年生は少人数（9名）である。5年生とも協力し、リーダーシップを発揮してもらいたい。そのためにも、自分たちで計画・実践する児童会活動に取り組ませたい。

・「10自分の考えや思ったことを発表している」「11むずかしい問題でも、わかるまでねばり強く考えている」の割合は、やや低く昨年度より下がっている。授業での発問の仕方を工夫しゆっくり考える余裕がある授業計画を立てるなど改善していきたい。

・「16すすんで読書をしている」は、昨年度同様「そう思う」の割合は低い。子ども達が読みたい本の購入、図書室の利用奨励・環境改善（図書委員会が、毎月工作コーナーを設置してくれている…HPにアップ中）など工夫していきたい。

令和7年度 アンケート(児童用)

4: そう思う 3: どちらかといえばそう思う 2: どちらかといえばそう思わない 1: そう思わない

(%)

No.	評 価 項 目	4	3	2	1
1	元気よくあいさつをしている。	64	29	7	0
2	交通安全や学校・学級のきまり・週目標を守っている。	62	38	0	0
3	学校での生活は楽しい。	66	28	6	0
4	学校や学級で友だちと仲よくしている。	74	26	0	0
5	自分のことをよくわかってきている友だちがいる。	59	32	9	0
6	命の大切さや仲よくすることの大切さについて学習している。	71	26	3	0
7	学校生活は、自分で考え、行動している。	47	41	9	3
8	今、勉強している内容はわかる。	55	42	3	0
9	先生や友だちの話をしっかり聞いている。	62	33	3	2
10	自分の考えや思ったことなどを発表している。	44	36	17	3
11	むずかしい問題でも、わかるまでねばり強く考えている。	46	38	12	5
12	自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする学習は楽しい。	48	44	8	0
13	授業でタブレット端末を使う学習はわかりやすい。	65	32	2	1
14	体を動かすことが好きで、体力がついてきた。	71	20	6	3
15	宿題はわすれず、きちんと出せている。	55	38	4	3
16	進んで読書をしている。	37	34	18	11
17	家で勉強を学年×10分以上している。	39	32	15	14
18	学習用具をわすれず、きちんと持ってきている。	62	29	2	7
19	一生懸命にそうじをしている。	62	31	3	4
20	何事にも一生懸命に取り組んでいる。	57	38	0	5
21	自分にはよいところや得意なことがあると思う。	71	22	4	3
22	給食は残さず食べている。	58	30	8	4
23	見学や体験活動からわかったことは役に立つ。	74	24	0	2
24	先生は、授業を工夫してわかりやすく教えてくれている。	74	24	1	1
25	先生は、がんばったことを認めてくれ、ほめてくれる。	67	31	1	1
26	先生は、困ったことや悩んでいることに相談にのってくれる。	68	26	5	1
27	先生は、いじめや仲間はずれのないようにしっかり教えてくれる。	73	22	4	1
28	先生は、地震・津波、火事、不審者に出会ったときなどに、どうすればいいか教えてくれる。	78	17	3	2

保護者

■ 成果

- ・学校・学級の実践については、概ね「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の評価をいただいでおり、回答の傾向も昨年度と似ている。
- ・「19けがや病気への対応」「20防災・防犯対応」「21安全管理」は、全て「そう思う」「どちらかといえばそう思う」であった。病気やけがの連絡は迅速に行い、非常時の救急車要請も躊躇しないことを共通理解している。また、毎年、心肺蘇生法講習会や交通安全・防犯・防災の訓練を地域・家庭と連携し、計画的に実施しており、今年度は、勝浦町赤十字奉仕団主催で、防災士の会、鹿背山クラブ、町総務防災課と住民課と連携して、防災学習会も実施している。
- ・「24体験的な活動を積極的に取り入れるようにしている」も高い評価を得ている。交通安全キャンペーンやひな飾りの体験活動に参加したり、町行事へ金管バンド部が出演したりと町おこしに貢献できていると感じている。横瀬小の特色である、家庭、地域、学校が一体となった教育を実践し、ふるさとを愛する子どもの育成をしたい。
- ・「27学校の様子を伝えている」も高評価であった。児童の活動については、学年・学校だよりの他、ホームページでも随時紹介している。

■ 課題

- ・「3お子さんは学校へ行くのを楽しみにしている」の割合は、高いとは言えず昨年より下がっている。しかし、児童アンケートの「学校への生活は楽しい」は高い割合を示している。児童の様子をよく観察し、何らかのサインは見逃さないよう気をつけなければならないと感じている。
- ・「6お子さんは、授業はよくわかると言っている」「7お子さんは、学年に応じた基礎学力が身についている」の「そう思う」が昨年度より10ポイント程度下がっている。学校では、児童の学習状況を分析し、学力向上計画を立て指導に当たっている。来年度は、より慎重に計画・実践しなければならないと考える。
- ・「15お子さんは、家庭でゲームやインターネット使用の約束を守っている」は、守られていると守られていないがほぼ同じ割合。学校では、保健委員会がメディアコントロールの劇を行い、利用ルールの大切さを訴えた。家庭向けには、メディアコントロールチャレンジを行ったり、鹿背山教室で「スマホ・ケータイ安全利用教室」を開催したりして利用方法について考えていただいた。今後も、ますます利用が広がるSNSについて、正しい利用の啓発を行っていく。
- ・「18学校（学級）は、差別やいじめのない仲間づくりに取り組んでいる」では、「そう思う」が27%と低い。人権教育の充実を図るとともに、「いじめや差別はどここの学校でも起こりうる」という危機感をもって指導に当たるよう努めるようにする。また、児童アンケート27より、学校（学級）の実践が家庭に伝わっていないことが考えられる。学んだことを家庭に持ち帰り、話し合う機会をつくることも重要である。



令和7年度 学校評価（保護者）アンケート

横瀬小学校 R8年1月

4：そう思う 3：どちらかといえばそう思う 2：どちらかといえばそう思わない 1：そう思わない

○ お子様のこと (%)

No.	評価項目	4	3	2	1
1	お子さんは、元気よくあいさつをしている。	43	43	14	0
2	お子さんは、交通ルールや社会生活のきまりを守っている。	55	37	8	0
3	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしている。	49	35	14	2
4	お子さんは、学校で友達と仲よくすごしている。	45	51	2	2
5	お子さんは、思いやりのある子に育ってきている。	45	45	10	0
6	お子さんは、授業がよくわかると言っている。	23	59	14	4
7	お子さんは、学年に応じた基礎学力が身についている。	25	53	18	4
8	お子さんは、自分の考えや意見を伝える力が身につけてきている。	33	53	10	4
9	お子さんは、年齢に応じた体力が身につけてきている。	31	57	8	4
10	お子さんは、忘れ物をしないように、学習の準備をきちんとしている。	23	49	20	8
11	お子さんは、家庭で、勉強を学年×10分以上きちんとしている。	23	33	28	16
12	お子さんは、家庭で読書をしている。	6	18	31	45
13	お子さんは、家族に学校の話をよくしている。	35	45	12	8
14	お子さんは、家庭で手伝いをしている。	22	35	35	8
15	お子さんは、家庭でゲームやインターネット使用の約束を守っている。	14	35	27	24

○ 学級・学校、保護者のこと (%)

16	学校の教育活動について全体的に満足できる。	34	63	3	0
17	学校（学級）は、子ども同士のトラブルや悩みなどに適切な対応をしている。	44	43	13	0
18	学校（学級）は、差別やいじめのない仲間づくりに取り組んでいる。	27	63	10	0
19	学校（学級）は、けがや体調が悪くなったとき等の対応が適切である。	67	33	0	0
20	学校（学級）は、地震・津波などの防災や防犯への対応について適切な指導ができています。	43	57	0	0
21	学校（学級）は、子どもたちの安全管理に配慮をしている。	57	43	0	0
22	学校（学級）は、子どもたちの学習環境を整えている。	48	52	0	0
23	学校（学級）は、思いやりの心を育てるように努めている。	34	63	3	0
24	学校（学級）は、体験的な活動を積極的に取り入れるよう努めている。	54	43	3	0
25	学校（学級）は、確かな学力の保障と学習意欲の喚起に努めている。	20	77	3	0
26	学校（学級）は、体力・健康づくりを推進している。	27	73	0	0
27	学校（学級）は、HP、学校新聞、学級・学校だより等で学校の様子を伝えている。	63	37	0	0
28	学校（学級）は、家庭との連携がとれている。	26	67	7	0
29	保護者は、授業参観やPTA活動に積極的に参加している。	47	53	0	0

2 来年度に向けての学校改善について

○ふるさとを愛する子どもへ

勝浦町の人口は、2000年が約6,700人、2010年が約5,700人、2020年には約4,800人となり、右肩下がりの状態が続いている。10年に1,000人ずつ減少した現状から、未来の人口には危機感を感じている。勝浦町第6次総合計画（R3～R12）では、『「住み続けたい」「帰ってきたい」「暮らしてみたい」誰もが幸せを感じられる町阿波かつうら』をめざし、ふるさと教育の推進や学校教育の充実に力を注いでいる。これらを受けて、本校でも地域学習を教育課程に位置づけ、授業を行っている。将来、勝浦町でずっと住み続ける児童の割合はそう高くはないと想像するが、もし勝浦町を離れても、故郷を気にかけて、時には戻り、支援してくれる人にはなってもらいたいと願う。

現在、地域ボランティアの方々にお世話になっている体験学習で、例えば町探検は3年社会、米作りは5年社会の教科書に出てくるので、それらの活動は社会科の年間計画に組み込まれている。子ども達は町のよいところをいっぱい学んでおり、来年度も地域教材を効果的に教科と関連付けられるよう工夫し、学びを豊かにしていきたいと考えている。

○学力及び学習意欲向上に向けて

・全国学力テストやステップアップテストの結果から、基礎学力の定着・向上は重要な課題と言える。さらに児童アンケートの「自分の考えや思ったことなどを発表している」「難しい問題でもわかるまでねばり強く考えている」の達成率が低いことから、学習意欲の向上も課題である。考えたことの根拠や解答にたどり着いた過程などを文字や言葉で表現できることは、今の教育では重要視されている。子どもたちが学習する過程の中で、他の人との協働を通じて自分の考えを広げ、知識をお互いに関連づけてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、授業者はこのような機会を意図的に作り、展開する必要がある。「主体的・対話的で深い学び」と言われているが、そのような視点に立った授業改善を行うことで、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続ける児童の育成をめざす。

また、今年度は、徳島県小学校音楽教育研究大会が本校で開催されている。音楽教育についてだけでなく、「学習指導計画」、「授業展開の工夫」「指導と評価の一体化」「地域人材を生かした活動」「支援の工夫」「ICTの効果的な活用」と、どの教科にも通ずる研究を行った。研究したことを実践できるよう取り組みたい。

3 保護者の皆様からのご意見について

○インフルエンザなどで数日間学校を休んだ後に、授業でのやり残し（テストやドリル、図工の作品等）を休み時間等に取り戻すのは、子どもの負担になるのでどうかしてほしいといったご意見をいただきました。

お子さんや保護者によって取り戻しの考えは、「しっかり補ってほしい」「しなくてもよい」など様々だと思います。子どもにとって休み時間は大事ですので、重点を絞って指導し、負担ができるだけ少なくなるように配慮いたします。

また、3月より「ラーケーションの日」という新しい学び方が導入されます。子どもが保護者等と一緒に、平日に校外で体験や探究の学びを・活動を自ら考え、企画・実行することができる日です。2月末に配布されるリーフレットをよく読んで、ご利用ください。ただし、この新しい学び方の利用において、学習の取り戻し指導はしないことが前提ですのでご注意ください。

○モラロジーからの作文募集に対し学校は全員応募(3年生以上)していますが、子どもも親も作文は負担であるし、その作文の扱いも気になるところ。モラロジーの取組についても説明してほしいといったご意見をいただきました。

モラロジーとは、「モラロジー道徳教育財団」のことであり、その財団のホームページには、理念や「家族のきずなエッセイ」について書かれていますので、詳しくはそちらをご覧ください。

勝浦郡の小・中学校では、その理念に賛同(教育委員会は後援)して応募していますが、このような学校外部からの募集への応募作品は、通知表に記述する評価の対象ではありません。ただし、「お話の絵」や「人権ポスター」など授業の単元の一つとして取り扱っているものは、評価しています。

作文の書き方については、物語文や説明文などの単元で、段落のことや「」の使い方、文章構成の仕方や接続詞の使い方、マス目用紙(原稿用紙)への書き方など基本的なことを指導しています。何を書いたらよいか分からなかったり、作文用紙の使い方のきまりが分からなかったり、作文が苦手な児童が多いことは把握しています。次年度は、作文の書き方指導を一つの課題に取り組んでまいります。

また、道徳の授業には、「家族愛」「友情・信頼」「生命の尊重」など様々なテーマがあり、授業の最後には自分の生活の振り返りを行っています。そのときの思いを作文に綴るなど工夫し、「家族のきずなエッセイ」応募への対応の一つとしたいと思います。

○今後、児童数が減っていくと思います。PTA活動や子供会のあり方を見直したほうがいいのではないのでしょうかというご意見をいただきました。

大事な問題だと思います。来年度は、児童数が67名(9名減)、家庭数が50戸(3戸減)となります。PTAや子供会が何のためにあるのか、誰のためにあるのか、目的をしっかりと認識し、見直しについて話し合っていく必要があると思っています。

○子どもから聞く話だけでは何とも言えないですが、担任の先生の話し方や怒り方に少し不安を感じることもあるというご意見についてです。

ご心配をおかけしています。日頃より、児童の学習や生活態度、気持ちの面がマイナス方向に向かっているときは、子どものせいではなく、教師自身の指導を振り返り、子どもにとって一番いいことを考え取り組んでいくよう話しています。子どもの心情に寄り添い、言動に節度をもって指導ができるよう徹底して努めます。

昨年度も回答しましたが、他人の心身を傷つける行為や安全・安心を脅かす行動は、許されないこととしっかり指導することが大事であると考えています。もちろんその場で大きな声で叱ることもあります。そのとき、周囲の児童がなぜ叱られているのか分からないままでは、その様子だけが心に残ってしまいます。そのような指導の後には、周囲の児童にもどのようなことがあって指導していたかを話し、みんなで理解・協力して安全・安心な生活ができるよう努めます。

気になる点がございましたら、いつでも校長、教頭、担任、担当職員へご連絡ください。

